

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)をめざして

すべての人が生きがいを持って豊かな生活を送るため、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」を実現することは、とても重要であり、相模原市では働きながら安心して育児や介護ができる地域社会を目指し、平成19年度より、相模原市仕事と家庭両立支援推進企業の表彰を行っております。

相模原市内企業の取組み事例



平成27年2月1日（日）、「平成26年度相模原市仕事と家庭両立支援推進企業表彰式」が「相模原市ワーク・ライフ・バランス講演会」の中で行われ、「社会福祉法人 中心会」と「認定NPO法人らいぶらいぶ」が表彰されました。仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業としてその功績を讃え、取組み内容について広く、企業・市民の皆様にご紹介いたします。



社会福祉法人 中心会 中心子どもの家 中央区田名10125
相模原南児童ホーム 南区新戸905-1

子育てをしている職員に対する職場全体の理解と協力が得られています！

社会福祉法人中心会が運営する中心子どもの家及び相模原南児童ホームは児童福祉法に基づく児童福祉施設です。児童養護施設には古い歴史があり、戦争で親を亡くした子どもたちを救済するところからスタートしましたが、現在は社会問題にもなっている虐待による入所が7割を占めているのが現状です。相模原南児童ホームは乳児院と児童養護施設の合築施設で新生児から18歳の子どもたちが施設で生活しています。

中心会の理念に“あなたがいてくれて良かったと思える街づくり”というスローガンがあります。これは、施設の子どもたちだけではなく、

地域社会の誰もが自分に誇りを持ち、生きる喜びを享受し、自分の家族や隣人の存在を素直に喜ぶことができる社会にしていきたいといった願いが込められています。私たちは、この理念に基づいて、積極的に地域社会の子育て支援を行っております。

中心子どもの家及び相模原南児童ホーム両事業所の約8割が女性職員です。従来の児童福祉施設は、結婚と同時に退職しなくてはならないといったいわゆる、寿退社が当たり前でしたが、子育て支援の環境を整えることにより、結婚してからも仕事を続け、出産休暇、育児休業、子の看護休暇制度、育児短時間勤務制度を利用しながら結婚、出産、育児休業を経て、現場に復帰する職員が増えてきました。年間105日の休日の他、有給休暇は20日あり、100%完全消化ができています。有給休暇は、15日を計画年休として、家族旅行やリフレッシュ等に有効に使われています。残り5日間は時間単位でも取れるようになっており、勤務中に、お子さんの授業参観や三者面談等で一時的に時間休を取るなどして年休が有効に使われています。また、どちらの事業所においても共通して言える事は、子育てをしている職員に対して職場全体の理解と協力が得られていることです。乳幼児を抱えた職員は突発的なお子さんの病気やケガで看護しなくてはならないことがよくあります。こんな時に、「安心してお子さんの看病をして下さいね」と声を掛け合う事ができる職場風土になっています。

ワーク・ライフ・バランスを実現することは、結果的に職員が長く仕事を続けていくことに繋がります。入所児童の養育者が変わらない事は、子どもたちの成長においてもとても大切なことで、ワーク・ライフ・バランスを実現することが事業所にとっても必要不可欠となっています。これからも、私たちは、ワーク・ライフ・バランスのより充実した支援に取り組んでいきたいと思っております。



認定NPO法人らいぶらいぶ 南区相模大野3-15-16 NKビル602

みんなで協力しながら仕事と家庭の調和を図っています！

らいぶらいぶは、相模原市立図書館勤務の非常勤特別職（司書）が、専門知識や経験を活かし、人と本と図書館を結ぶ活動がしたいとの思いから、2005年10月に発足しました。2006年にNPO法人を取得、2013年に認定NPO法人として認証を受けた団体です。

らいぶらいぶは、本を通して心豊かな生活を送りたいと願う人と図書館を結ぶNPOとして、相模大野図書館の窓口業務等の受託、「ブックチャンス」「絵本の中の料理を作る会」の開催、エフエムさがみでの本の紹介、「おはなしフェスタ」などを行っています。

40名の図書館スタッフのうち男性は3人で、女性が即戦力として働いています。年代は、20代～60代と幅広く、うち4人の職員が出産の

ための休暇、育児休業を取得し、保育環境を整えてから復職しています。2人目の出産にも3人が同様に取得しました。

復職後の子育て支援策としては、育児短時間勤務制度や遅番シフトへの配慮などの工夫をしています。自然な流れとして周りのみなんで協力をしながら、仕事と家庭の調和を図っています。それには、業務のマニュアル作りによるスムーズな引き継ぎや組織運営の工夫で、働きやすい雰囲気の職場作りが大切だと考えています。その中で生まれてくる知恵やアイデアが組織を強くし、やりがいを持って働き続けることにつながると思います。

働き続けることで、専門性を高め、さらにより良い図書館サービスを提供していくことを目指します。

育児短時間勤務をしている従業員は、短い時間の中で最大限のパフォーマンスを行い、職業人としても家庭人としても時間の使い方が非常に上手です。まもなく大介護時代がやってきます。ワーク・ライフ・バランスを目指して、多様性のある働き方の工夫をさらに続けていきたいと思っております。